

## 2020年度檜葉町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

檜葉町では、東日本大震災に伴う原発事故等により営農が約5年にわたり中断していたが、平成28年度から本格再開となった。震災以降、農家も長い避難生活を強いられていた中で、農業者全体の高齢化や後継者・担い手不足が顕在化し離農の意向が強くなり、営農再開が思うように進まない状況である。この状況を改善するため平成30年度後半から農地マッチング事業を新たに立ち上げた結果、水稲作付については、平成30年度58haから令和元年度約175haと大きく伸びたが、まだ震災前約410haの5割にも満たない状況である。営農再開していない農地が多い現状から営農面積を増やすためには、特に長期間耕作していない農地で再開することに対する収量減少や低品質等での収入面におけるデメリットを補う対策が必要である。

さらに水利不良の耕地については、水田作以外の活用として高収益作物であるタマネギのほかサツマイモ栽培や、麦・大豆・そば等作付けで荒地化を防ぐ手立てが将来的に必要と思われる。

また、風評被害に対する懸念や自己の生活再建が未了のため、さらに農家の高齢化率進行もあり、時間の経過と共に営農再開の意欲も低下している状況となっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

東日本大震災以降、営農再開にあたって主食用米の水稲実証栽培や全量全袋検査実施及びPR事業を行い、風評払拭に取り組んできた。将来的には需要に応じた生産を基本とするが、まずは町の原風景を取り戻すべく震災以前の作付面積を目標として作付けに取り組む。中食・外食のニーズが高まっている業務用米に対応するため、経営規模の拡大・直播栽培、低コスト資材の導入等を推進し生産コストを低減し競争力の強化を図る。さらには特別栽培米や有機米の栽培を促進することで、付加価値の高い米の生産にも取り組む。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

飼料用米を転作作物の重点作物に位置づけ、産地交付金を活用し多収品種の導入、直播栽培や肥料・農薬の低減、立毛乾燥技術等コスト低減に取り組むとともに、実需者とのマッチングを強化し、作付面積の拡大を図り生産の団地化、収穫機械・乾燥調製施設の共同利用等低コスト生産技術の推進をする。また、地域の畜産業者との結びつきを図り流通を拡大していきたい。

##### イ 米粉用米

該当なし

##### ウ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要が減少する中、内外の米の新市場開拓を図るため、戦略的輸出基地（産地）として輸出米の生産に取り組む。輸出先で売れる価格帯を目指すには、低価格での取引になるのでコストの低減が必要になる。そのため、多収品種の導入や密植栽培等生産コストの削減に取り組む。

#### エ WCS用稲

実需者とのマッチングにより、生産体制を確立することで作付に取り組む。WCS用稲の生産拡大にあたっては、国からの産地交付金を活用し団地化等の低コスト生産の推進を図る。

#### オ 加工用米

該当なし

#### カ 備蓄米

集荷業者との連携により、県別優先枠の有効活用を図る。多収技術を導入し生産量を確保することで、主食用米並みの所得が得られる有利性を周知しながら取組を推進する。

#### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については該当なし。

飼料作物については、町内での畜産農家の増加により牧草等の需要が拡大したため、生産の拡大を推進し、地産地消体系の確立を目指す。産地交付金を活用し、地域の畜産農家と連携を図る取組を推進し、生産の拡大を図る。

#### (4) そば、なたね

該当なし

#### (5) 高収益作物（園芸作物等）

安定した需要が見込め、機械作業の体系が確立している土地利用型野菜のたまねぎについては、福島県でも作付を推進していることもあり、地域の振興作物のひとつとして位置付け、産地交付金を活用し生産拡大や産地化に向けた取組を強化する。

#### (6) 畑地化の推進

該当なし

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	105.4	147.0	147.0
飼料用米	43.2	57.0	57.0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	1.0	0	0
WCS用稲	2.9	3.0	3.0
加工用米	0	0	0
備蓄米	23.1	23.0	23.0
麦	0	0	0
大豆	0	0	0
飼料作物	9.3	15.0	15.0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0

その他地域振興作物	3.4	4.6	4.6
野菜 ・たまねぎ・	3.4	4.6	4.6

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	飼料用米（一般品種、多収品種）（基幹作物）	戦略作物助成①	飼料用米（一般品種、多収品種）取組面積	（R1年度）43.2ha	（R2年度）57ha
2	WCS用稲（基幹作物）	戦略作物助成②	WCS取組面積	（R1年度）2.9ha	（R2年度）3.8ha
3	牧草（基幹作物）（イタリアンライグラス、オーチャードグラス）	飼料作物助成	牧草取組面積	（R1年度）9.3ha	（R2年度）15ha
4	たまねぎ（基幹作物）	野菜助成	野菜取組の面積	（R1年度）3.4ha	（R2年度）5.6ha